

ク ロ ー バ ー

Clover

VOL.07

2013年秋号



株式会社 さち コーポレーション
グループホーム さち

ホーム長のご挨拶

今年は本当に暑い夏でしたね。台風も被害が大きく、寒さが増すと一気に効用も落葉すると思われます。日本の四季が変わってきているようです。この暑い夏をさちでは無事乗り越えることができました。本当によかった。

こうしているうちに、季節はいつの間にか秋になってしまいましたね。グループホームでは毎年恒例となっている日帰りバス旅行を10月に開催しました。昨年に引き続き、今年も全員で静岡県掛川市の掛川花鳥園へ行ってきました。途中、体調を崩された方もみえましたが、こうして何とか無事全員で思い出をつくることができ、本当に嬉しく思います。来年はどこへみんなで行くのか、また楽しみができました。

11月に入り、風邪がだんだんと流行してくる季節となります。風邪の予防のためにも思いっきり笑い、歌い、散歩したりして、今年の冬も楽しく乗り切りたいものです。



最近流行りのカフェ！？

さちのある愛知県は全国的にも有名な「喫茶店」が非常に多い地域です。最近は喫茶店、というよりも「カフェ」と呼ぶ方が一般的なのかもしれませんが、毎年いろんな流行がありますが、ここ最近新聞にも取り上げられてきているカフェがあります。それは「認知症カフェ」。もしかしたらすでに行ったことのある方や、実際に行ったことのある方もみえるかもしれませんが、改めてこの最近流行りつつある「認知症カフェ」についてご紹介させていただきます。

認知症カフェとは、認知症に関係している人たちが気軽に集まってお茶やランチをしながら、さまざまなことをお互いにおしゃべりする場所のことを呼びます。「認知症に関係する人たち」ですので、このカフェにご本人がもちろん行っても大丈夫！よくある「当事者の会」や「家族の会」だと、ちょっとお固くて行き辛い、という人たちがもっと気軽に集える場所を、ということを目指してきたのがこのカフェです。こうしたカフェが出来

上がった背景には、認知症という病気が広く一般的に知られるようになったことが挙げられます。すでに認知症と診断されたご本人やご家族の様々な不安や悩みを気軽に話し合えることももちろんですが、「自分が（家族が）もしかしたら認知症かもしれない」という不安を抱えている人たちやその家族が、病院に行く前の段階で気軽に情報を集めたり、いろんな話を聞いてその不安を少しでも緩和できれば、ということもこのカフェの機能に含まれてることが多いようです。認知症についての心配事を気軽に話せる場所が自分達の住む地域にどこにでもあるカフェという形であると、ちょっとでもほっとするような感じになりませんか。ただ、この「認知症カフェ」は、国の設置基準などはないので、運営する事業所によってその雰囲気や内容はさまざまようです。いずれにしても、認知症になっても、今までと同じように外へ気軽に出掛けて安心して暮せる街につながる鍵の一つとなると思います。ぜひ、皆さんの街にもこのようなカフェがないか探してみてください。

（ちなみに、愛知県では「認知症カフェ」と明言されているところで東海市にある「日向家」さんが10月よりサービスを開始しています。ご興味ある方はぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。）



研修に行って来ました GH部 介護職員 則武秀昌

認知症フォーラム2013として三重県鳥羽シーサイドホテルにて東海3県の認知症に関わる関係者が集い、盛大にフォーラムが開催されました。三重県の代表的な二見太鼓の方々によるお出迎えから始まり、今年は伊勢神宮の式年遷宮の年でもあることで、日本文化に欠かせない「雅楽の舞いと演奏」の上演など有り、三重県の受け入れの方々による華やかお出迎えによりスタートしました。



講演は2日間にわたり、1日目の1回目は「アルツハイマー型認知症と診断された母親の日常生活と介護を通じて」を基調に『毎日がアルツハイマー』の監督 関口祐加さんによる講演をはじめ、関口監督と和田行男氏のトークセッション『今、求められる認知症ケアの視点』がありました。関口

監督の人柄を表す実直且つユニークな講演は、監督としての視点と子供から母親を見た視点を交えながら、病気として理解しながらも時には苛立ち、時には第三者として客観的に捕らえ生活をしている自分の心を分かりやすく楽しく話をされました。自分たちも仕事として、利用者様と触れ合いをしながらも、時には迷い、悩みながら、また、受け入れながらしている事と重なり共感しながら聞かせて頂きました。トークセッションでは、グループホームとして受け入れをしている和田氏（「今日はGパンじゃないですが・・・」というもののセリフからスタート）と、認知症を持った家族との関係など冗談を交えながら、受け入れにも視点はいくつかありますが、「パーソン・センタードケアが大切」を中心に分かりやすく又考えやすく話をされました。



講演2回目は「認知症の人を支える為に地域に求められる役割と連携」をテーマに石黒秀喜氏（長寿社会開発センター事務局長・元厚生労働省大臣官房参事官）から『認知症施策推進5か年計画（オレンジプラン）』について、作成までの経緯や内容また、税と社会保障一体改革を、自説を交え解説をされました。



2日目は3分科会構成で、分科会1：『グループホーム・小規模多機能が地域の資源としてどう有るべきか』をテーマに和田行男氏と参加者のパネルディスカッション、分科会2：『認知症の人と薬について』をテーマに品川にあるこだまクリニックの木之下医院長及び本多看護婦長の講演会、分科会3：映画『毎日がアルツハイマー』上映が開催されました。各分科会で有意義な時間を過ごし12：30で解散となりました。私は分科会2：『認知症の人と薬について』に参加し、「予防・回復・維持を初めからクスリに頼るのではなく、介護に関わる人が認知症の人毎のケアをしっかりすることが大切である。」を中心に医療と介護の連携について楽しく勉強させていただきました。

以上2日間、講師の方々とも触れあいの出来る有意義なフォーラムでした。来年は岐阜県が受け入れになるそうです。また楽しく参加してみたいと思います。



このコーナーは、グループホームさちの活動をご報告いたします。

流しそうめん会を行いました（8月）

世間は夏休み真っ最中のこの日、豊田高専のボランティアサークルの学生さんたちがグループホームの入居者のみなさんのために「流しそうめん会」を企画してくれました。大きな竹を横に並べて、入居者の方が取りやすい角度はどれくらいかしっかりと考えながら設置。お陰さまで皆さんとっても楽しんでみえましたよ～！



初めてのぶどう狩り体験（8月）

「岡崎のぶどう狩りはいいよ～。行きたいね～」というグループホーム入居者さんの鶴の一声により、急きょ「ぶどう狩り」で有名な岡崎市の駒立へ行って来ました。いちご狩りは毎年行っていますが、ぶどう狩りは今まで体験した事がないという方ばかりで・・・



皆さんここぞとばかりに沢山のぶどうを採ったり食べたりしてみえました！

消防訓練をしました（10月）

だんだんと空気が乾燥してきましたね。そうなると心配なのは「火事」です！豊田市の消防職員さんに来て頂き、煙をグループホーム内に充満させて本番さながらの訓練を行いました。なんとかほぼ全員無事避難！?できました。まずは火事を起こさないことが一番大切ですよ！



今年は掛川花鳥園でした（10月）

毎年恒例の秋の日帰りバス旅行。今年は2年前にも行きました、静岡県掛川花鳥園へ行って来ました。多くの鳥や花が出迎えてくれ、皆さんも喜んでいただけたみたいです。来年は、どちらへ行きましようかね？



お便りご紹介



先日グループホームさちを見学された方からのお便りをご紹介します。

お二人の話を伺って思ったことは、「出会いの大切さ」でした。人生に様々事が起こってきますが、それをどのように取捨選択するのが、人生の一番大切なことだと常々感じていましたが、それを再確認させて頂く良い機会でした。自分がどのように生きようか・・・ということについていつも考えている訳ではありません。私も、娘が生まれた頃に、娘が15歳になったら私は娘の語りのサポーターをしているから、それまでに準備しようなんて考えてきませんでした。娘が生後1ヶ月で『てんかん発作』をおこし、診察を受けると「生後一年未満の発作は後々障害が起こる、それも重なった障害が起こる確率が高いです」と言われたときのショックは大きかったはずですが、そこに囚われる時間がなかったように思います。小学校に入学したら笑顔が消え、障害児学級へ入れて頂けるようお願いし、中学校へ入学したら今度は『不登校』。地域の学校では娘の障害への理解を頂くのに学校とぶつかるばかりで、娘は養護学校中学部へ転校しました。そのことと並行して、娘は『語り』と出会い、『語り部になりたい』という夢を追い続けることになりました。ピンチはチャンス！この言葉をどれだけたくさん使い続けてきたらだろうか・・・。いえ、この言葉は私にとって現在進行形で使い続けています。でも、娘の『障害』ということがなければ、ピンチはチャンス！という言葉の持つ力を実感することは出来なかったと思います。そんな娘のとの様々なことをオーバーラップさせながら聞かせて頂きました。

そしてもう一つ。お陰様で次の人生の扉を開くことが出来ました。昨年10月より娘はワンルームで一人暮らしをボツボツとしていました。ボツボツというのは、一週間に一日程度ということです。とても環境のよいワンルームでしたので、お家賃も高く、そろそろ家族の負担になっていました。家賃が負担になるからといって、一人暮らしの難しさに加え、長男の将来（結婚など）を考えると、安易に名古屋に戻すこともできず、豊田市に住みたいという娘の強い意志もありましたので、いよいよ主人と私が娘と豊田市内で同居することになりました。その覚悟を決めるまでの2ヶ月間の中でグループホームを訪ねる機会を頂きました。娘の舞台がたまたま県外が重なって、また、豊田市内では『ふらっとルーム』という大イベントがあり、その中で家探しと引越しを致しました。お母様が言われていた「思っても誰かが背中を押してもらえたから一歩踏み出せるんです」という言葉通り、色々な人のお話を伺いながら私も自分自身の覚悟を決めさせて頂きました。そして、私は

娘がゆったりと語りの練習が出来るような場所を、そしてそこが人の集まり場になるような・・・そんな場所を作れるように頑張りたいと思います。神谷さん親子の頑張りを見せて頂いたので、疲れた時は『グループホームさち』さんのことを、お二人のことを思い出してがんばれるなあと思います。神谷さん、本当にありがとうございました。

小林希依子

<癒しの時間> lesson6 栗のバタークッキー

11月に入り木々も鮮やかに色づいてきましたね。香嵐溪の紅葉の見ごろはもう少しですが、緑からオレンジ、朱色へのグラデーションが美しいですね。真っ赤に燃えるようなケヤキの紅葉もクリスマスカラーで、とてもワクワクします。昔は夏の暑さ、冬の寒さはとても苦手でしたが、こうして季節の移ろいを感じるように意識しだしてからは、過ぎ去っていく一瞬一瞬がとてもはかなく、かけがえのない大切な瞬間に思えるようになりました。長くなりましたが今回は秋の味覚、「栗」を使ったクッキーのレシピをご紹介します。

<材料 約 15 枚分>

- | | | | |
|------|--------|----------|-----|
| ・薄力粉 | 50g | ・コーンスターチ | 10g |
| ・バター | 40g | ・砂糖 | 35g |
| ・溶き卵 | 大匙 2 杯 | ・甘栗（刻む） | 4 粒 |

<作り方>

- ①ボールにバター、砂糖を入れ泡立て器ですり混ぜるようにクリーム状になるまでよく混ぜたら、溶き卵を小匙 1 杯入れて混ぜるを繰り返す。（卵を一気に加えると分離します。）
- ②薄力粉とコーンスターチを別容器で混ぜ合わせ、①にザルで振るい入れたら刻んだ栗も加え、へらでさっくりと混ぜ合わせ生地を一まとめにする。
- ③生地をラップで包み冷凍庫で休ませます。15分ほどで成型しやすい硬さになるので、直径 5cm ほどの円筒形に成型したら、再び冷凍庫に入れ 15分ほど休ませる。
- ④その間にオーブンを 180 度に予熱する。
- ⑤休ませた生地を包丁で 5mm 幅にカットし、クッキングシートを敷いた天板に並べオーブンで 13 分焼く。（我が家のオーブンでは中段で綺麗な焼き目がつきました。）
- ⑥焼きあがったらケーキクーラーなどに乗せて冷まして完成。

生地は冷凍保存できますので、まとめとて作って食べたいときに焼くことができます。

温かい飲み物と一緒に秋の夜長のお供にどうぞお試しください。

<by ゆうこ>

ご協力ありがとうございます

さわやか豊田のみなさん 佐橋澄雄さん 島袋大正琴教室のみなさん 豊田工業高等専門学校
の学生さん 宮崎さん

(順不同)

ボランティアさん募集

グループホームさちではボランティアさんを募集しています。「ボランティアって
と何か出来ないといけないのでしょ?」と思う方もみえるかも知れません。確かに色んな
特技を活かしてボランティアをして下さる方もみえますが、ほんの空いた時間に、入居者
の方とお話しをしていただいたり、お茶を飲みがてら一緒に植物の手入れをしたり、ご飯
作りを手伝っていただいたり・・・普段の生活にほんの少しのお手伝いをしていただけ
だけでも大歓迎です。お一人でもお友達同士でお越しいただいても構いません。一緒にこ
れからの高齢者の生活を考えながら活動しませんか? <担当：神谷>



編集雑記

暑い費がまだまだ続く、と思っていたら、あっという間に秋がやってきました。朝晩の
気温の差が激しいためか、利用者の方だけでなく職員にも風邪の症状がみられることがあ
ります。体調管理をしっかりして、風邪にならないように気をつけたいですね。また、秋
のこの時期は職員にとって研修シーズンとなります。全国各地へ行って勉強する機会もあ
ります。それぞれが学んだことを、実践の場に活かして利用者の皆へ還元できれば、と思
っています。(まり)

発行 行／株式会社さちコーポレーション

〒471-0067 愛知県豊田市栄生町3-58 ☎0565-35-0805

<http://www.e-sachi.co.jp/>

発行責任者／神谷 幸子

発行日／2013年11月10日(発行予定月 2月5月8月11月)